

平成26年第1回蒲郡市地域公共交通連携検討委員会 議事録

- 1 日時 平成27年7月23日(木) 午前10時～11時15分
- 2 場所 蒲郡市役所 201会議室
- 3 出席者
- | | | |
|-----|-----------------|---------------|
| 委員 | 名鉄バス東部株式会社 | 加藤直樹(代理 加藤紀幸) |
| 委員 | 豊鉄タクシー株式会社 | 上村正美 |
| 委員 | 株式会社かね一自動車 | 石田悦司 |
| 委員 | 総代連合会会長 | 天野忠則 |
| 委員 | 総代連合会副会長 | 大場克海(欠席) |
| 委員 | 総代連合会副会長 | 鈴木勝利 |
| 委員 | 蒲郡市身体障害者福祉協会 | 金沢孝一 |
| 委員 | 蒲郡市老人クラブ連合会 | 市川紀子 |
| 委員 | 蒲郡市社会福祉協議会 | 藤城直司 |
| 委員 | 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 | 坂部三智 |
| 委員 | 蒲郡商工会議所 | 佐藤康彦 |
| 委員 | 蒲郡市観光協会 | 荒島祐子 |
| 委員 | 形原地区公共交通協議会 | 壁谷権一朗 |
| 委員 | 蒲郡市交通防犯課長 | 藤川弘行 |
| 委員 | 蒲郡市企画政策課長 | 尾崎弘章(代理 肥田道雄) |
| 委員 | 蒲郡市観光商工課長 | 池田高啓 |
| 委員 | 蒲郡市都市計画課長 | 神谷時康 |
| 委員 | 長寿課長 | 三浦正博 |
| 委員 | 福祉課長 | 平岩和明 |
| 委員 | 土木港湾課長 | 大場昭佳 |
| 事務局 | 蒲郡市交通防犯課長補佐 | 竹下暁 |
| | 蒲郡市交通防犯課主事 | 足立昌平 |

4 議題

- (1) あいさつ
- (2) 蒲郡市地域公共交通連携検討委員会について
- (3) 委員自己紹介及び役員の選出
- (4) 会議の進め方について

5 協議事項

- (1) 蒲郡市地域公共交通事業の推進に係る行動『指針』(案)について

6 その他

7 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が19名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通連携検討委員会設置要領第6条2項の規定により会議が成立することが事務局より報告された。

(2) 議題

ア あいさつ

- ・ 26年3月に策定した蒲郡市地域公共交通総合連携計画に基づき、地域資源の活用、関係者間の連携、事業の推進のために当検討委員会を設置させていただいた。蒲郡市には、鉄道、路線バス、タクシーの運行がある。4月から形原地区でコミュニティバスの運行を開始した。利用促進、啓発、周知について進めている。1日20人前後の利用。便当たり3人の利用がある。公共交通の事業内容は多岐にわたり、関係者間の連携をもっと進めていきたいと思う。それぞれのお立場から忌憚のないご意見を頂戴したいとの挨拶があった。

イ 蒲郡市地域公共交通連携検討委員会について

- ・ 事務局より、資料1の1頁を用いて説明が行われた。

[質疑]

- ・ なし

ウ 委員自己紹介及び役員の選出

- ・ 委員自己紹介
- ・ 蒲郡市地域公共交通連携検討委員会設置要領第5条2項により、会長、副会長が委員の互選により選定された。

エ 会議の進め方について

- ・ 事務局より、会議の議事録は要点筆記とし、公開を前提とするが、発言者が特定されないように議事録には匿名で記載し、傍聴については非公開とすることを事務局提案とし、承認された。

[質疑]

- ・ なし
- ・ 事務局より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

(3) 協議事項

ア 蒲郡市地域公共交通事業の推進に係る行動『指針』(案)について

- ・ 事務局より、資料1、参考資料1に基づいて説明が行われ、蒲郡市地域公共交通事業の推進に係る行動『指針』(案)について蒲郡市地域公共交通会議に諮ることとなった。

[質 疑]

(委 員)

- ・ 4月からくるりんバスを運行させた。実際に乗車しながら利用者の意見を聞いている。意見箱を形原公民館に設置した。意見としてあがっているものは、1便だけでも、市民病院、蒲郡駅に直接行ってもらいたいとの声があった。
- ・ くるりんバスは支線バスで、赤い電車やバスにつなげているものであるが、利用者には乗り換え

について理解されない。利用者の多くは、病院や買い物の利用が多い。高齢者で車の運転が怖くなったとして、免許返納者もいた。

- ・ 将来的には、うまく市民病院・蒲郡駅につながるようになればと思う。

(委員)

- ・ 新聞で高齢者の自動車事故の記事を見る。例えば、父親の免許を取り上げてしまうと、家にこもってしまうと聞く。公共交通がなくて、無理して車の運転をしている人がいる。そういう人のために交通空白地は減らさなければならない。外出が減り、家にこもるのも良くない。警察にも協力してもらい免許の更新も厳しくしないといけない。

- ・ 交通ルールを守れなくなっている運転手のためにも公共交通を大切にしたい。

(委員)

- ・ 障害者の対応をしているが、引きこもりがちになる。そうした人に外出できる機会、手段を提供したい。空白地帯を埋めていくことは大切なこと。行政としてもこうした取組を進めていきたい。

(委員)

- ・ 形原地区は、デマンド方式などの議論も行った。予約が大変、ダイヤを覚えるのも大変だけどいろいろ考えた。

- ・ 長寿会から病院利用のため朝便が欲しいとの意見があったが、実際には利用が少ない。実際に運行してみると意見が出てくる。

(委員)

- ・ 高齢者の病院利用は、子供に診察券だけだしておいてもらい、本人はあとからゆっくりいくことがわかった。運転手によっても違うと思う。会話のうまい、ガイドができ、親切。そうした運転手の資質も重要だと思う。

(委員)

- ・ 走らせてほしいという地域を聞いているか。

(委員)

- ・ 平成26年3月に蒲郡市地域公共交通総合関係計画を策定した。その中では地元で創り育てていくことを記載した。市から要請するのではなく、地元から発案してもらう形で、形原地区は地元から手を挙げていただいた。声があるのは、山間部、塩津など。総代会を通じて、バス事業の説明を実施したいと考えている。地域にあった手法での運行を考えていく。街中の人は運転免許を持っていない、老人にとっては空白地という話は、また考えていきたい。

(委員)

- ・ 街中の居住者は昔便利だったから運転免許をもっていない。バスも道路整備で走る場所が変わっていく。街中も考えるべき。

(委員)

- ・ 小学校で赤い電車について授業をしたとき、子どもたちから市の税金を公共交通に1億4千万円も使っているのは無駄使いではないかと言われた。子どもたちは子どもたちで考えている。

- ・ 電車がなくなると街が衰退し、税収にも影響してくる。有効な使い方を考えなければならない。

- ・ 乗らないから運賃が高くなる。また、イベントでの集客にも限界がある。地域との協力の形を考
えていく必要がある。

(委 員)

- ・ 市長も乗られたということで話題になった。今度、認知度を上げていく必要がある。

6. その他

- ・ 事務局より、次回の蒲郡市地域公共交通会議にて、今回の協議内容について報告させていただく
ことと、蒲郡市地域公共交通会議にて意見があれば修正し、この委員会に再度報告させていただく
ことについて連絡を行い会議は終了した。